

# コミュニティへの参画・発展

## 日立がめざすもの：ステークホルダーと協創する、より良い未来



企業は事業を展開する現場を通じて、多様な属性のステークホルダーの共同体である「コミュニティ」と接しています。現代において企業は、社会の持続可能な発展に向け、コミュニティとのかかわりを尊重し、事業の特性を生かした支援を進める「コミュニティ参画・発展」への積極化が期待されています。

日立は、良き企業市民として、多様なステークホルダーと協働し、次世代の育成、多彩な文化の創出、地域社会発展への貢献、環境保全活動への参画などを通じ、多様なコミュニティへの参画ひいては社会との共生をめざしています。

## 2016年度 活動オーバービュー



2016年度は、LBGガイドラインに基づく社会貢献活動調査を実施した上で社会的投資を進め、従業員による社会貢献活動の支援や途上国での人材育成施策を継続的に実施したほか、理系人材育成への取り組みにも力を入れました。

### 主な活動計画と実績

#### 継続的なコミュニティ参画・開発活動の推進

施策	2016年度計画	2016年度実績	達成レベル	2017年度計画
事業を展開するコミュニティとの中長期的な関係構築策の検討・実行	・「戦略的社会貢献活動」の考え方を整理	・北米でのCSRネットワーク強化のため各グループ会社にてCSR責任者を指名 ・グローバルで、コミュニティ投資の比率および代表的な事例を共有 ・社会貢献活動調査のシステム化、活動の評価およびKPI設定の検討	★★★	・日立における社会貢献活動指針案についてヒアリングを実施し、内容を確定 ・社会貢献活動の評価手法の確立とKPI設定
コミュニティに対する支援の実施	・グループ従業員によるプログラムまたは従業員を対象としたプログラムの実施 ・グループ各社と協働で実施した自主プログラムの実施 ・グループ各社、ビジネスユニット(BU)独自のコミュニティ支援活動の実施	・ボランティアフェスティバル実施準備(共催先の都合により開催は来年度に延期) ・従業員募金(マッチングギフト制度)の社外事例調査と検討実施 ・日立ボランティアデーにて約120件の活動を実施	★★★	・日立ボランティアデーの継続実施と活性化

施策	2016年度計画	2016年度実績	達成レベル	2017年度計画
理系人財育成にかかわる施策の実施(国内) 地域コミュニティに資する新規事業の実施 (グローバル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>理系人財育成支援にかかわるプログラムの開発・実施(国内)</li> <li>地域コミュニティに資する新規事業の企画・立案(グローバル)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「理工系人財育成プログラム」(日立みらいイノベータープログラム)の検証授業を実施</li> <li>「理工系女子応援プロジェクト」として、有識者対談および内閣府男女共同参画局長への取材実施</li> <li>「理工系女子応援」サイトを新設</li> <li>日立サイエンスセミナーを実施</li> <li>Webマガジン「みらい」の公開</li> <li>社会をみつめるシンポジウム開催・地域コミュニティに資する新規事業ワークショップを実施</li> </ul>	★★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>「理工系人財育成支援プログラム」を日立グループで展開開始</li> <li>「理工系女子応援プロジェクト」として女子高生対象のミニワークショップ開催</li> <li>サイエンスセミナー継続開催</li> <li>Webマガジン新企画および社会をみつめるシンポジウム開催(以上国内)</li> <li>地域コミュニティに資する新規事業案の仮説を立て、検証実施(グローバル)</li> </ul>
途上国に対する人財育成施策の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>第14回「日立ヤングリーダーズ・イニシアティブ(HYLI)」の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第14回HYLI実施準備</li> </ul>	★★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>第14回HYLIの開催および各国におけるReporting Meetingの実施</li> <li>プログラムごとのKPI検討</li> <li>SDGsの視点で日立の社会貢献活動が必要な地域を把握</li> </ul>

★★★★: 達成    ★★★: 一部達成    ★: 未達成

## 継続的なコミュニティ参画・開発活動の推進

### 日立のアプローチ

日立は幅広い分野の事業をグローバルに展開しており、接点をもつコミュニティも多岐にわたります。コミュニティに参画し、長期的な関係を構築し、そのコミュニティの発展に貢献するためには、戦略的に社会貢献活動を強化するとともに、継続的に活動目標を設定することが重要であると考えています。日立は、社会貢献活動方針を定め、グループ横断で多彩な活動を展開しています。また活動の成果は国際的な効果測定手法に即して検証し、内容の改善を図っています。今後、これらの取り組みを一層加速するため、公益財団法人日立財団による地域コミュニティへの貢献方法も模索しています。

### 社会貢献活動

#### 社会貢献活動方針

日立はグループ各社共通の社会貢献活動方針に基づいて社会貢献活動を推進しています。よき企業市民として地域社会と信頼関係を築くとともに、ボランティア活動を通じてもたらされる従業員の柔軟な発想や働く意欲の増加などが、社会イノベーション事業をはじめとする日立のさまざまな事業を支える原動力となっています。こうした活動がさらに持続可能な社会と事業の発展に大きく寄与すると考えています。

なお、日立共通のグローバル施策として、2012年度から「日立ボランティアデー」を実施しています。毎年12月5日の国際ボランティアデーを含む11月、12月を強化月間と位置づけ、各国・地域の社会課題解決のため、従業員がさまざまな形でボランティア活動を実施しています。2016年度は、地域の住民や学生とともに取り組む環境活動や、福祉施設や教育施設への支援など、地域コミュニティに根ざした活動115件に、約7,540人の従業員とその家族が参加しました。

活動の推進にあたっては、CSR・環境戦略本部のほか、各ビジネスユニット(BU)、主要グループ会社のCSRあるいは社会貢献担当者が、それぞれの事業内容や展開している地域のニーズや課題に即した活動を計画し、実施しています。

2016年度に日立グループおよび日立財団は、社会貢献関連費用として19億5,300万円を支出しました。

#### 社会貢献活動方針とステートメント

##### 社会貢献活動方針

日立グループは、「人づくり」「環境」「地域貢献」の重点分野において、事業活動と関連した社会貢献活動と従業員ボランティアや慈善活動などを通じた地域社会との双方向なコミュニケーションを推進します。

##### ステートメント

「人を育み、未来へ繋ぐ」

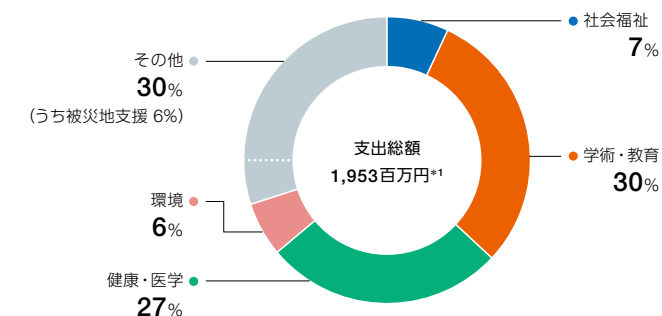
方針に込められた意味を、簡潔に表現し、より多くの人々にアピールするものとして、ステートメントを定めています。



社会貢献活動

#### 主要指標

- 社会貢献関連費用内訳



\*1 日本：日立製作所およびグループ会社134社、計135社、日立財団  
海外：159社

## LBGガイドラインによる分類

日立は、LBG\*1測定フレームワークに基づいて、①慈善活動と寄付、②長期的な戦略的コミュニティ投資、③特定ビジネスのための社会貢献活動、という3つの動機を取り入れ、8事業すべてを対象に社会貢献活動調査を実施しています。日立は、事業に関連する社会貢献活動に戦略的に注力していきます。そのために、日立全体で、慈善活動を継続しつつ、コミュニティ投資への活動拡大をめざします。

2016年6月には、岩手県釜石市の地域活性化や産業振興などに協働して取り組むことを目的に、日立製作所、釜石市、一般社団法人新興事業創出機構の3者による協定を締結しました。地域コミュニティのニーズや課題を共有しながら、地元の漁業協同組合や水産加工会社のWebサイト構築、業務システムの改修など、日立のもつIT分野の専門性やスキルを生かしたプロボノ活動を継続して行っています。

また、日立が事業を通じて培ってきた知識や技術を、次世代の社会を担う人財育成に役立てるため、自治体や教育機関などと連携しながら、青少年を対象とする科学教室やIT出張授業、製品を用いた体験型プログラムなど、グループ各社の特性を生かした活動を実施・展開しています。

## LBGガイドラインに基づく社会貢献活動の動機別比率(金額ベース)

	2014年度	2015年度	2016年度
①慈善活動と寄付	80%	80%	75%
②長期的な戦略的コミュニティ投資	18%	16%	20%
③特定ビジネスのための社会貢献活動	2%	4%	5%

\*1 LBG (London Benchmarking Group): 国際的に認められている社会貢献投資の効果測定基準を策定する世界114社のメンバー企業から構成される団体。LBGモデルは、世界で300社以上が活用



LBG (英語サイトのみ)

## 公益財団法人 日立財団

2015年4月に、日立の国内5財団が合併した公益財団法人日立財団は、「学術・科学技術の振興」「人づくり」「地域コミュニティ支援」を中核領域とする活動を開始しました。2016年度は、社会が直面する課題の解決に貢献し、社会の期待に応えるための事業を加速するべく、新規事業にも着手しました。

「学術・科学技術の振興」では、日立製作所の元会長、故倉田主税が日本の科学技術の発展を願って1967年に設立を提唱した「倉田奨励金」贈呈事業により、国内の研究支援を行ってきました。本事業は日立財団となったことを機に時代の変化に合わせて内容を見直し、2016年度はエネルギー・環境、都市・交通、健康・医療の3分野における社会課題の解決を目的とする研究を対象に、30件の研究テーマに助成金を交付しました。

「人づくり」では、2016年度に「理工系人財育成支援事業」を体系化するとともに、2つのプログラムを開始しました。「日立みらいイノベータープログラム」は小学5年生を対象に独自に開発した4カ月の探求学習プログラムで、課題解決のスキルトレーニングを通じて理学的・技術的思考を培います。グループ共通の社会貢献プログラムとして従業員ボランティアを活用し、2017年度から本格展開する予定です。また、「理工系女子応援プロジェクト」は中学・高校の女子生徒を対象とした理工系への関心や進路のモチベーションを喚起させる啓発活動です。さらに、「理工系女子が切り拓く未来」をテーマにシンポジウムと有識者対談も実施しました。

「地域コミュニティ支援」では、社会的弱者や社会課題を多方面から捉え、幅広い読者に向けて啓発を行い、その解決法や展望、支援策を提示するWebマガジン「みらい」を創刊しました。これと連動して行う社会啓発事業として、社会的弱者に焦点をあてた「社会をみつめるシンポジウム」も開催しました。

今後も日立財団は、時代のニーズを捉え、社会が直面する課題の貢献に資する新規事業の立ち上げをめざし、有識者とのダイアログやワークショップ、意見交換などを実施し、地域コミュニティにいかに関与できるかを模索していきます。



日立財団